

# 第5回保健科学研究院国際シンポジウム報告 The 5th FHS International Conference (FHS 2021): Look for the Silver Lining in the Post-Pandemic Health Sciences

国際交流専門部会長 山内 太郎

9月17日(金)～18日(土)の2日間、保健科学研究院において第5回国際シンポジウム(The 5th FHS International Conference, FHS 2021)を開催しました。

保健科学研究院(Faculty of Health Sciences, FHS)が主催する国際シンポジウムは2013年から隔年開催しており、第5回目を迎え、今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響により初のオンライン開催となり、約250名にご参加いただきました。

今回は、協定校の香港大学からDr. Polly Wai-Chi Li, 台北医学大学からDr. Yung-Feng Lin, チュラロンコン大学からDr. Anussara Prayonggratを招待した他、国立成功大学(台湾)からDr. Cheng-Feng Lin, 中南湘雅二医院(中国)からDr. Qian Liu, タンロン大学(ベトナム)からDr. Hien Thi Thu Ngoをお招きし、さらに、保健科学研究院から吉田倫子講師、長谷川直哉助教、吉村高明助教、Sikopo Nyambe学術研究員の計10名が講演を行いました。看護学、臨床検査学、放射線医学、理学・作業療法学、国際保健学、健康科学といった広範な保健医療分野をカバーするシンポジウムになりました。

講演に加えて、第2回国際シンポジウム(FHS 2015)から恒例となっている、大学院生による一人1分間の口頭ポスター紹介「ショットガン・プレゼンテーション」

は事前に撮影した動画をZoom内で視聴し、続いて、85題のポスター発表に関する質疑応答がオンラインビジネスツールであるSlack上で2日間に分けて行われました。

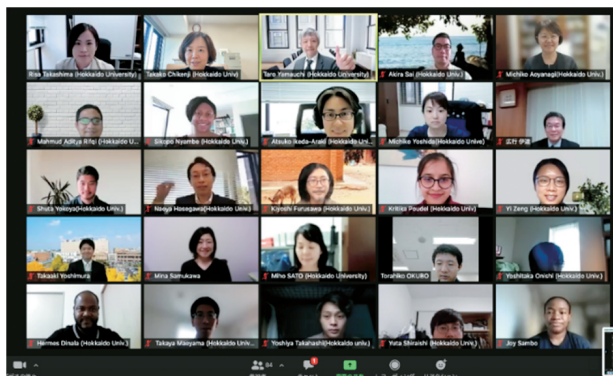
招待講演やポスターセッションはいずれもオンライン上でのやりとりでしたが、大学院生は懸命に英語で自らの研究に対する質問やコメントに回答し、活発なやりとりが行われました。新型コロナウイルスの感染拡大が収束しない中、大学院生が海外に渡航して国際学会に参加する機会は限られていることから、本国際シンポジウムは大学院生にとって大変貴重な機会です。この経験を今後の研究活動に活かしてもらいたいと期待しています。

また、ポスターを発表した大学院生に贈られる「Best Poster Award」については、Shan Yunさん(保健科学コースD3)、Yi Zengさん(保健科学コースD1)、上田龍一郎さん(保健科学コースM2)の3名が受賞しました。

最後に、本シンポジウムの開催にあたり、海外からの招待講演者の皆様、座長及び発表を引き受けていただいた保健科学研究院の教員の方々、当日の運営及び準備等にご尽力いただいた国際交流専門部会員及び事務の方々、保健科学研究院長をはじめ参加いただいた教員、大学院生、学部生の皆様に感謝申し上げます。



伊達研究院長のご挨拶



オンラインによる参加者の集合写真



Best Poster Award 授賞式